## 第3期第13回 帯広市産業振興会議 次第

日時: 平成 27 年 1 月 30 日 (金) 16:00~

場所:帯広信用金庫中央支店3階セミナールーム

- I. 開 会
- Ⅱ.報告
  - 1. 帯広市産業振興ビジョンの見直しに係るパブリックコメントの結果について
- Ⅲ. 協議
  - 1. 具体的な取組の検討について
- Ⅳ. その他
- Ⅴ. 閉会

配付資料・資料1 事業検討シート

・資料 2 十勝の観光文化検定 検討会議報告書

	事業検討シート		
抢	憲策の基本方向	1 中小企業の経営基盤の強化	
	体的な取組に 関するご意見	1 創業・起業の促進を通して地域全体の活性化を促す	
	①事業主体	帯広市ほか	
現状の取組	②事業内容	創業・起業支援フェアの開催 平成19~26年度 年1回 累計8回開催 起業した方の講演、支援制度説明、個別相談 帯広地域雇用創出促進協議会が、平成26年度より創業セミナーを開催 (3カ年事業) 平成19年度から25年度まで、フェア参加者のうち19者が創業・起業	
	③その結果	下版13年度が525年度まで、フェア参加省のプラ19省が創来。起来	
	①事業主体	帯広商工会議所(帯広市、市内金融機関、研究機関等)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	上記、フェアに加えて、平成27年度より創業支援ネットワークの活用により、個別の創業案件について各関係機関が連携して支援を実施する。  【意見】 ・創業支援ネットワークの具体的な活動や役割がよく見えない。このネットワークの役割は何か、どのように連携するか、検討する必要がある。(三 品委員)	

事業検討シート 施策の基本方向 1 中小企業の経営基盤の強化 具体的な取組に 関するご意見 |2 関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と発信の統一化 ①事業主体 帯広市中小企業研修連携会議 総合的、効果的な人材育成を推進するため、地域の関係機関が横断的 |に連携し、総括的に市がホームページにて研修情報等を掲載。 ②事業内容 現状の取組 各機関の研修等を総括的に情報発信することにより、受講者数の増加が 見込まれた。 ③その結果 帯広市中小企業研修連携会議 ①事業主体 上記研修情報の掲載のほか、平成27年度より各機関の研修の相互活用 などの方策を検討する。 【意見】 ・シート13、14と内容がほとんど同じ。研修連携会議ではなく、シート14 取 のようなプラットフォーム的なものを想定している。(三品委員) ②想定される ・各団体が個別に支援制度を持っているが、自分の団体の制度だけを載 具体的な内容 せている。まずは、帯広市から把握できる可能な範囲で、別団体を含め て(どの団体・期間・支援内容・適応範囲・特記)を簡潔に一覧化する。-覧にしたものを他団体にも共有表記してもらうように促す。(眞鍋委員)

	事業検討シート		
抢	策の基本方向	1 中小企業の経営基盤の強化	
具	体的な取組に 関するご意見	3 商店街や個店等の活性化を促進する	
	①事業主体	帯広市、商店街	
現状の取組	②事業内容	商店街の事業への補助 商店街が実施する、にぎわいの創出や環境整備などを支援し、商店街の 活性化を図る	
	③その結果	まちのイメージアップ、利便性の向上のほか、商店街を含む地域コミュニティ機能の強化やまちのにぎわいの創出が図られ、営業店舗の増加や空店舗の減少に寄与している	
	①事業主体	帯広市 (帯広市商店街振興組合連合会)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	上記支援に加え、平成27年度より個店魅力の向上に資する研修を開催するほか、商店街への意向調査を実施し、補助制度の見直しを検討する。	

事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成
具体的な取組に 関するご意見		4 U·Iターン経験者からの聞き取りによるニーズ調査
	①事業主体	
現状の取組	②事業内容	現状、U·Iターン者の実態の把握ができていない。 住民票などでも、単なる転勤なのか、U·Iターンとして引っ越してきたのか の判断はできないため、実数把握も難しい。
	③その結果	
	①事業主体	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	帯広市に転居してくる人に、アンケートを配布し、実態を把握する。 関係団体等と連携しながら把握できる範囲のU・Iターン者リストを作成 し、聞き取りによるニーズ調査を実施する。

	事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成	
具	体的な取組に 関するご意見	5 U·Iターン者へのフォローアップ	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容	現状、U·Iターン者の実態の把握ができておらず、フォローアップもできていない。 帯広地域雇用創出促進協議会(ジョブジョブとかち)において、「就活情報 提供サービス」を行い、登録者(全道・全国)へ地元の合同企業説明会等 の情報提供を行っている。	
	③その結果		
	①事業主体	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	ニーズ調査を踏まえ、U・Iターン者にどのようなフォローアップが必要か、 検討をすすめる。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成	
	体的な取組に 関するご意見	6 ホームページ、十勝以外に居住する十勝出身者のネットワーク等を活用し、十勝の魅力を発信	
	①事業主体	帯広市	
現状の取組	②事業内容	移住のためのホームページはあるが、U・Iターン希望者向けの企業紹介を行うホームページは設けていない。 平成25年度に作成した十勝の企業を紹介する情報誌「ワークワーク」のホームページへのリンクはあり。 帯広地域雇用創出促進協議会(ジョブジョブとかち)において、「就活情報提供サービス」を行い、登録者(全道・全国)へ地元の合同企業説明会等の情報提供を行っている。	
	③その結果		
	①事業主体	帯広市	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	U・Iターン者向けに、就業や働く人に視点を置いたホームページや情報 冊子等を作成する。 首都圏での合同企業説明会を開催するほか、高校生の進学先への配 布、東京帯広会等、十勝管外の十勝関係者のネットワーク等を活用し、ホームページや情報冊子等のツールを用いて、十勝の情報を発信する。	

事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成
	体的な取組に 関するご意見	7 出前講座、職業体験イベント、副読本等を利用した小中学生への情報発信
	①事業主体	帯広市ほか
現状の	②事業内容	小学3、4年生を対象に、職業体験をしてもらうおびひろキッズタウンを開催。 平成24年度より実施 平成26年度は11月29日(土)に実施 参加企業21社 参加児童 約350名
粗	③その結果	児童が楽しみながら、職業に対する関心を持てた。
	①事業主体	帯広市
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	おびひろキッズタウンの継続 小中学校向け、職業出前講座(職業紹介)の実施 出前講座を希望する企業を募集し、講座内容を一覧にして、各学校へ配布 地元企業に関心を持ってもらうような小中学生向け副読本の作成(平成28年度以降 内容、財源等要件等)

	事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成	
具	体的な取組に 関するご意見	8 長所・短所に関わらず、企業側の正確な情報を発信	
	①事業主体	各企業	
現状の取組	②事業内容	現状、帯広市では個々の企業情報等の発信は行っていない。各企業がそれぞれに会社紹介パンフ、求人パンフを作成	
	③その結果		
	①事業主体	各企業	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	求職者が、その企業に就職したいと思うような情報の発信 (企業にとって不利な情報も提示することで、逆に信頼を得る) (企業の将来像を提示することで、安心感を与え、本人のやる気を促す)	

	事業検討シート		
拭	憲策の基本方向	2 産業人・担い手の育成	
	体的な取組に 関するご意見	9 一企業での研修は負担が大きいため、業界関係者が共同で行う研修制度の整備	
	①事業主体	带広市中小企業研修連携会議	
現状の取	②事業内容	総合的、効果的な人材育成を推進するため、地域の関係機関が横断的に連携し、総括的に市がホームページにて研修情報等を掲載。 北海道中小企業家同友会とかち支部では、長年にわたり新入社員や若手社員、中堅幹部向けの育成カリキュラムに取り組んでいる。 (主な研修) 新入社員研修、新入社員フォローアップ研修 社員ステップアップセミナー(全10講座) 中堅幹部学校(全15講座程度) ※年度によって変動	
組	③その結果	各機関の研修等を総括的に情報発信することにより、受講者数の増加が見込まれた。	
	①事業主体	① 帯広市中小企業研修連携会議 (北海道中小企業団体中央会十勝支部) ② 帯広市 (各企業)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	① 上記研修制度の周知に加え、平成28年度より各業界の組合が行う研修制度の整備の支援する。 ② 早期離職対策として、7月頃に新人社員向けのフォローアップセミナーを開催し、安易な離職を防止する。	

事業検討シート		
施策の基本方向		2 産業人・担い手の育成
	体的な取組に 関するご意見	10 次世代リーダー育成のための継続的な研修の実施
	①事業主体	① 帯広商工会議所 ② フードバレーとかち推進協議会、個別事業者
現状の取組	②事業内容 ③その結果	① 経営者研修の開催 平成20年度より、経営者を対象とした研修プログラムを新設し、開催。 ② 十勝人チャレンジ支援事業フォローアップ 十勝で産業に従事する者のうち、十勝人チャレンジ支援事業を活用して自らの課題解決のための調査研究等を行った者を中心に、互いの活動報告や意見交換を通じて、異業種の事業者間の人的ネットワークの構築を図るとともに、課題解決や新たな事業展開の発想を見つけ、新たなビジネスを創造するきっかけを探す。 平成26年12月までに「十勝人の集い(仮称)」として2回開催。年度内にもう1回開催予定。おびしん経営塾経営者大学(全10講座) ※同友会とかち支部 平成27年1月開講などがあり ① 財務経営力強化セミナー、創業セミナーなど、複数回、継続的な開催。 ② 平成26年度からの取組であり、効果の出現はこれから。なお、1回目は20人、2回目は9人の産業人の参加があり、人的ネットワークの構築に貢献。
	①事業主体	① 帯広商工会議所 ② フードバレーとかち推進協議会 (個別事業者)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	① 上記研修に加え、平成28年度よりリーダー養成研修、事業継承研修等による、次世代のリーダー養成研修の開催。 ② 事業目的は平成26年度と同様。ただし、平成26年度はフードバレーとかち推進協議会が中心となって開催してきたが、平成27年度以降は各事業者の自主性を生かした取組に移行する。

	事業検討シート		
ħ	施策の基本方向	2 産業人・担い手の育成	
	体的な取組に 関するご意見	11 「人材育成工程表」の作成と、人材育成に係る社内での認識の共有 化	
	①事業主体	各事業者	
現状の取	②事業内容	各企業において個別に取り組んでおり、具体的な取組状況は不明。	
組	③その結果		
	①事業主体	各事業者 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	各事業者で取り組むべき「人材育成工程表の導入」について、事業者間同士の集会等において、先進的に取り組んでいる企業等から取組・効果等について紹介してもらうなど、普及・啓発を進める。	

	事業検討シート		
施	策の基本方向	2 産業人・担い手の育成	
具	体的な取組に 関するご意見	12 メンター制度への理解促進と導入の推進	
	①事業主体	各事業者	
現状の取組	②事業内容	各企業において個別に取り組んでおり、具体的な取組状況は不明。	
	③その結果		
今後の取組(想定)	①事業主体	各事業者 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部)	
	②想定される 具体的な内容	各事業者で取り組むべき「メンター制度の導入」について、事業者間同士の集会等において、先進的に取り組んでいる企業等から取組・効果等について紹介してもらうなど、普及・啓発を進める。	

13			
	事業検討シート		
挤	策の基本方向	3 ものづくり産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	13 支援制度等の情報とその活用方法をメール配信や情報誌等の手法 を用いて、企業に提供する	
	①事業主体	帯広市、帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部、中小 企業総合支援センター 他	
現状の取	②事業内容	【帯広市】 企業訪問やメールマガジンによるセミナー、支援制度等の情報提供 【商工会議所、中小企業家同友会】 HP、メールマガジンの発行によえるセミナー情報等の情報提供 【中小企業総合支援センター】 支援制度ガイドブックの発刊、HPによる支援制度等の情報提供	
組	③その結果	【成果】 それぞれの支援機関を窓口に補助制度の採択、セミナー等参加による意識の向上が見られる。 【課題】 このような制度にエントリーする企業に固定化の傾向が見られることから、より一元的かつわかりやすい情報公開が求められている。	
	①事業主体	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部、中小企業総合支援センター 他)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	情報発信等の一元化を図ることなど、企業へ必要な情報を届けるためのより効果的な手法について、関係機関が連携して検討する。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	14 企業支援のホームページは、デザインや機能を整理し、企業にとって見やすく情報を検索しやすいように工夫する	
	①事業主体	中小企業総合支援センター 他	
現状の取組	②事業内容	【中小企業総合支援センター】 支援制度ナビにより、事業段階ごとにカネ・モノ・ヒトに分類した支援情報 の検索が可能 【ミラサポ(中小企業庁委託事業)】 公的支援機関の補助制度等をHPで公開	
	③その結果	【成果】 事業者が自社の状況に合わせた補助制度などを自身で検索することができる。 【課題】 時間、人員を十分に確保できない中小企業者が、自力で支援情報を探し活用することは困難	
今後の取組(想定)	①事業主体	帯広市 (帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部、中小企業総合支援センター 他)	
	②想定される 具体的な内容	情報発信等の一元化を図ることなど、企業へ必要な情報を届けるためのより効果的な手法について、関係機関が連携して検討する。【13 再掲】	

15			
	事業検討シート		
施	<b>正策の基本方向</b>	3 ものづくり産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	15 支援制度の活用にあたっては、行政のノウハウを有効に活用し、エントリーしやすいようにする	
	①事業主体	帯広市、中小企業総合支援センター、他支援機関	
現状の取	②事業内容	【支援機関共通】 補助金の申請時の相談窓口の設置 【帯広市】 公益性の見られる事業への実施主体としての参画	
組	③その結果	【成果】 珈琲専科ヨシダ「ものづくり補助金」 アサヒ金物「中小企業事業応援ファンド」他、多数の補助制度の獲得 JICA草の根事業における申請主体としての参画 【課題】 相談窓口としては各機関とも活動しているが、中小企業の認知が足りない点、また申請書作成にかかる事務手続きの煩雑さの解決には至っていない。	
	①事業主体	帯広市 (中小企業総合支援センター、他支援機関)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	行政をはじめ支援機関が、支援制度に関する情報提供や申請書の作成 支援等を行い、サポートを行う。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興	
	体的な取組に 引するご意見	16 生産、加工、流通等、中小企業1社だけで取り組むことが難しいこと を共同・連携して行うために、企業同士の接点を作る場を提供する	
	①事業主体	帯広商工会議所、北海道中小企業家同友会とかち支部 中小企業総合支援センター	
現状の取組	②事業内容	【同友会、商工会議所】 同友会活動、会議所活動を通じて会員企業同士の連携を促進 【中小企業総合支援センター】 道内企業情報を募集、公開するホームページ『北海道企業情報データ ベース』	
	③その結果		
	①事業主体	商工会議所・北海道中小企業家同友会とかち支部	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	情報交換会、異業種交流、ビジネスマッチング等を通じて、企業間連携の機会を提供する。	

事業検討シート		
挤	重策の基本方向	3 ものづくり産業の振興
	体的な取組に 関するご意見	   17   各企業が持つネットワークを可能なかぎり「見える化」し、有効に活  用する
	①事業主体	
現状の取組	②事業内容	同友会では会員企業の紹介ページ、会議所では会員企業HPのリンク集をホームページに掲載しているが、各企業のネットワークを見える化した事例はない。
	③その結果	
	①事業主体	帯広商工会議所・北海道中小企業家同友会とかち支部 (各企業)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	情報交換会、異業種交流、ビジネスマッチング等を通じて、企業間連携の機会を提供する。【16 再掲】

	事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興	
具	体的な取組に 関するご意見	18 5S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)等、各企業において共通する取り 組みで連携し生産性を上げる	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
	③その結果		
	①事業主体	帯広商工会議所・北海道中小企業家同友会とかち支部(各業界団体)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	事業者間同士の集会等において、先進的に取り組んでいる企業等から 取組・効果等について紹介してもらうなど、普及・啓発を進める。	

事業検討シート		
柏	憲策の基本方向	3 ものづくり産業の振興
	体的な取組に 関するご意見	19 地域、企業の課題解決にマッチする帯広畜産大学の学部等の分析 を行う
	①事業主体	帯広畜産大学
現状の取組	②事業内容	帯広畜産大学のシーズ集の発行(H16)
	③その結果	【成果】 【課題】 継続的な更新が滞っている。 HP等に掲載されておらず、誰でも閲覧できる環境にない。
	①事業主体	帯広市 (帯広畜産大学)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	帯広畜産大学地域連携促進センターと協働でシーズ集の作成、更新スキームを確立し、シーズ集をHPに掲載するなど誰もが閲覧できる環境を整備する。

事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興
	体的な取組に 関するご意見	20 とかち財団等の試験研究機関の役割・機能を整理し、企業の課題解 決のために活用する
	①事業主体	北海道、帯広市、とかち財団
現状の取組	②事業内容	【食品加工技術センター】 各種事業展開による企業との連携促進 ・試験研究 ・技術指導 ・人材養成 ・技術交流 ・情報提供、成果普及 ・試験分析 ・指定管理事業 今後10年間の施設のあり方などについて、道、市等関係機関と協議 【十勝産業振興センター】 各種事業展開による企業との連携促進 ・企業相談事業 ・検査分析事業 ・試験研究事業 ・情報提供事業 ・人材育成事業 ・産学連携事業
	③その結果	【成果】 企業との商品開発実績 ブリ・ド・トカチ(ナチュラルチーズ)、とうふくんジャーキー ナッツ類トッピング装置の開発、血乳検査装置の開発 他 多数 【課題】 各企業による商品等開発実績が多数ある一方で、センターの機能等を把握していない企業が見られる。センター機能、地域で果たすべき役割が不明確
	①事業主体	とかち財団 (帯広市)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	食品加工技術センターや十勝産業振興センターの役割・機能をわかりやすく紹介する手法を確立するとともに、企業訪問等を通じて、それらの役割・機能の周知を図る。

事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興
具	体的な取組に 関するご意見	21 高等技術専門学院等において、地域で伸ばしたい産業についての 教育プログラムの作成などを行い、実務的な人材教育を行う
	①事業主体	帯広市、関係機関
現状の取組	②事業内容	畜大との連携による人材育成事業の実施 (フードバレーとかち人材育成事業)
組	③その結果	平成24年度からの実績 132名の修了生(平成26年度11月時点) 商品開発、HACCP取得、特許申請などの成果
	①事業主体	帯広市 (関係機関)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	高等技術専門学院のカリキュラムについては、同学院の運営協議会等を通じて、地域企業のニーズを伝えていく。 企業ニーズ等を踏まえて、必要と考えられる人材育成事業を検討する。

事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興
	体的な取組に 関するご意見	22 「十勝を丸ごと売る」という考えのもと、各企業が持つネットワークを 有効に使い、情報発信を行う
	①事業主体	
現状の取組	②事業内容	同友会では会員企業の紹介ページ、会議所では会員企業HPのリンク集をホームページに掲載しているが、各企業のネットワークを見える化した事例はない。 【中小企業総合支援センター】(16 再掲) 道内企業情報を募集、公開するホームページ『北海道企業情報データベース』
	③その結果	
	①事業主体	帯広商工会議所・北海道中小企業家同友会とかち支部 (各企業)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	情報交換会、異業種交流、ビジネスマッチング等を通じて、企業間連携の機会を提供する【16 再掲】ほか、共同で情報発信を行う手法を検討する。

	事業検討シート		
ħ	施策の基本方向	3 ものづくり産業の振興	
具	体的な取組に 関するご意見	23 企業⇒消費者⇒企業という情報の流れを活かすため、消費者を巻 き込んだ取り組みを行う	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
	③その結果		
	①事業主体	帯広商工会議所・北海道中小企業家同友会とかち支部 (各企業)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	消費者モニター等、「口コミ」を活かす取組を検討する。	

	事業検討シート		
抗	憲策の基本方向	3 ものづくり産業の振興	
具	体的な取組に 関するご意見	24 インターネットを有効に活用し、十勝のことを全て調べられるような ホームページの開設や生産者、業界団体の共同展開等を行う	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
組	③その結果		
	①事業主体	帯広市 (関係機関)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	関係者間において、総合ホームページの開設を検討する。	

事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興
具	体的な取組に 関するご意見	25 販路拡大に向けて域外にある機関等を活用する
	①事業主体	
現状の取組	②事業内容	
	③その結果	
	①事業主体	十勝海外展開連絡会議 ※事務局:帯広市
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	海外販路の拡大に向けては、JETRO等の公的機関をはじめ、金融機関との連携を強化する。

	事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	26 海外に向けた情報発信を強化するために、翻訳や通訳を担える人 材を登用する	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
	③その結果		
	①事業主体	十勝海外展開連絡会議 ※事務局: 帯広市	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	海外販路の拡大に向けては、JETRO等の公的機関をはじめ、金融機関との連携を強化する。【25 再掲】	

	事業検討シート		
施策の基本方向		3 ものづくり産業の振興	
具	体的な取組に 関するご意見	27 地域の魅力ある企業の情報をデータベース化し、地域内外に発信する	
	①事業主体	とかち財団、帯広市	
現状の取組	②事業内容	「十勝の食材データベース」(食品加工技術センター、とかち財団)とかち農業ストーリーブック(帯広市)	
	③その結果		
	①事業主体	帯広市	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	十勝管外の十勝関係者のネットワーク等を活用し、ホームページや情報 冊子等のツールを用いて、十勝の情報を発信する。【6 再掲】	

	事業検討シート		
施策の基本方向		4 産業基盤の強化	
	体的な取組に 関するご意見	28 共同利用施設、物流システムの構築による効率化の研究・検討(十 勝産食材の仕入れ先の確保等)	
	①事業主体	フードバレーとかち推進協議会	
現状の取組	②事業内容	十勝地域の物流の高品質化を図るため、物流面で十勝を魅力ある地域に成長させることを目的とした「フードバレーとかち物流改善支援セミナー」を開催(平成26年度)(年5回開催)  平成26年度からの取組であり、効果の出現はこれから。	
	③その結果	平成26年度からの収組であり、効果の田境はこれがら。 なお、5回で1セットのセミナーとなっており、登録者43名。	
	①事業主体	各事業者	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	各事業者がセミナーでの気付きを踏まえ、より効率的な物流システムの 構築に取り組む。(必要に応じて協議会がフォローアップ)	

	25		
	事業検討シート		
旅	五策の基本方向	4 産業基盤の強化	
具	体的な取組に 関するご意見	29 交通ネットワーク等、企業立地環境の整備推進	
	①事業主体	帯広市ほか	
		工業団地の整備・販売【工業労政課】	
現状の取組	②事業内容	国土交通省等への高規格幹線道路整備要望【十勝圏活性化推進期成 会】	
	③その結果	西20条北工業団地の空き区画残りわずか 高規格道路帯広·広尾自動車道の更別IC以南へ延伸予定	
	①事業主体	帯広市 (関係機関)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	工業系用地の必要性・あり方について今後検討予定。引き続き、高規格幹線道路整備要望を実施。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		4 産業基盤の強化	
具	体的な取組に 関するご意見	30 設備投資促進のための財政支援の拡充	
	①事業主体	帯広市	
現状の取組	②事業内容	帯広市企業立地促進条例による優遇措置	
	③その結果	平成24年度 課税免除 4件 平成25年度 補助金交付 2件、課税免除 3件	
	①事業主体	帯広市	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	既存企業の設備投資促進、域外企業の誘致につなげるための優遇制度について、企業ニーズの調査等を踏まえて検討する。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		4 産業基盤の強化	
	体的な取組に 関するご意見	31 ビジネスマッチングに特化した情報集約・発信。(インターネット等による域内企業の効果的な紹介等)	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
	③その結果		
	①事業主体	帯広市	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	十勝管外の十勝関係者のネットワーク等を活用し、ホームページや情報 冊子等のツールを用いて、十勝の情報を発信する。【6 再掲】	

事業検討シート		
施策の基本方向		4 産業基盤の強化
	体的な取組に 関するご意見	32 観光ポータルサイトの整備
	①事業主体	十勝観光連盟、帯広観光コンベンション協会、帯広物産協会
現状の取組	②事業内容	十勝・帯広の「あそぶ」・「食べる」・「見る」・「買う」に係る魅力の発信を各団体のホームページやフェイスブックで紹介している。 (例) 十勝総合振興局「Visit Tokachi」 http://visit-tokachi.jp/jp
	③その結果	H25年度実績 ・十勝観光連盟ホームページアクセス件数・・・132,183件 ・帯広観光コンベンション協会ホームページアクセス件数・・・261,330件 ・帯広物産協会「十勝市場売上実績」・・・1,165,703円(269件)
	①事業主体	帯広市
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・ホームページやフェイスブックの更なる魅力向上について、各団体と協議していく。 ・十勝・帯広のアクティビティを集約した総合予約サイトの開設を検討している。

33			
	事業検討シート		
方	<b>拖策の基本方向</b>	4 産業基盤の強化	
	体的な取組に 関するご意見	33 再生可能エネルギーへの取組への抜本的検討	
	①事業主体	带広市、十勝19市町村、各事業者	
現状の取組	②事業内容	太陽光エネルギーやバイオマス資源の活用促進(「帯広市環境モデル都市行動計画」「十勝バイオマス産業都市構想」等の推進)	
	③その結果	各事業者における太陽光発電システム、家畜排せつ物を活用したバイオガス発電プラントの整備が進展。	
	①事業主体	帯広市 (十勝19市町村、各事業者)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	省庁・関連企業等から情報収集を行い、新たな事業やプレイヤーの発掘を行い、引き続き、再生可能エネルギーの活用促進に資する取組を進める。	

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	34 体験⇒物販⇒飲食などのストーリー性や統一感のある観光地の形成を目指す	
	①事業主体	帯広市、SPCとかちむら	
現状の取組	②事業内容	<ul> <li>・平成22年8月に観光交流拠点施設として、「とかちむら」をオープンした。</li> <li>・地場産野菜や加工品が並ぶ「産直市場」、レストラン街の「飲食ゾーン」、スイーツが揃う「物販ゾーン」の複合施設で多くの市民や観光客が訪れている。</li> <li>・隣接する帯広競馬場と連携したイベント等を実施するなど「ばんえい競馬」の振興にも寄与している。</li> </ul>	
	③その結果	「とかちむら」の来場者数及び売上金額 ・H25来場者数・・・265,162人 ・H25売上金額・・・1億6,602万474円	
	①事業主体	観光事業者 (帯広市、帯広観光コンベンション協会)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・農作物の栽培、収穫、食品加工体験、1次、2次産品の販売、飲食などをひとつの施設で提供している「オークビレッジ柏の葉」(千葉県柏市)や「くるるの杜」(北広島市)などを手本に、統一感ある観光地の形成を目指す。 ・ばん馬馬車を運行し、「とかちむら」とスイーツ店など中心市街地を結ぶことにより、新たなストーリー性の創出を検討している。	

事業検討シート			
	. 514-20-20-5		
施	<b>憲策の基本方向</b>	5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	   35 「とかち検定」の実務化や資格取得者の雇用及び利活用の促進による観光案内の充実を図る	
	①事業主体	帯広商工会議所、帯広観光コンベンション協会、帯広市	
現状の取組	②事業内容	JR帯広駅1階に設置されている「とかち観光インフォメーション」で、「とかち検定」取得者をライフコンシェルジュとして活用している。	
	③その結果	平成25年度実績 ・配置日数・・・11日間 (H25年7月13日〜H25年8月11日までの土・日曜日と8月13日) ・配置延人数・・・24名	
	①事業主体	帯広商工会議所 (帯広観光コンベンション協会、帯広市)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・「とかち検定」を観光実務で活用できるよう出題内容の改編や資格取得者の観光現場での利活用について検討をしていく。 ・地域ぐるみで観光振興を推進するうえで、市民一人ひとりが観光案内人であるという視点から、より多くの市民が「とかち検定」を受験・取得してもらえるようPRを促進していく。  【意見】・商工会議所が行っているものはそのまま肯定し、商工会議所に実務者専用検定の新設実施を提案する。ハードルは高すぎず実用的な内容とする。管外交流者から質問されがちな内容に簡潔に答えられるような内容が好ましい。取得者にはバッジの授与、取得者雇用事業者には市から何らかの補助(給与の市民税一部減免や市HP掲載など)(眞鍋委員)・どなたでも理解できる現在あるテキストのダイジェスト版を普及させタクシードライバーやホテルマンなどに基本的な十勝の知識について理解して頂ければ「おもてなし」の一助になるのではと考える。(太田委員)	

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	36 「道の駅」の設置やインターチェンジの増設の要請などインフラ整備 による観光客等の利便性の拡大について検討	
	①事業主体	帯広市	
現状の	②事業内容	・「道の駅」については、休憩施設としての利用のしやすさ、「道の駅」相互の機能分担の観点から適切な位置に設置するものとされている。また、駐車場やトイレが24時間利用可能であることなどの基準が設けられている。 ・市内には、「道の駅」的な機能を持つ「とかちむら」を開業しているもの。 ・インターチェンジの増設については、「北海道十勝圏活性化推進期成会」等において要請活動を行っている。	
取組	③その結果		
	①事業主体	帯広市 (関係機関、観光事業者)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・「道の駅」については、設置の必要性や既存施設の機能拡充による利活用について検討する。 ・インターチェンジの増設については、引き続き関係機関の要請活動と連携しながら、実現を目指す。	

事業検討シート			
抗	5策の基本方向	5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	37 道東自動車道延伸に対応した事業展開及び他地域との連携を図る (沿線地域との情報共有や周遊ルートの造成連携など)	
	①事業主体	帯広市	
現状の取組	②事業内容	「道内中核都市観光連携協議会」において、各中核都市(札幌市、函館市、旭川市、釧路市、北見市、帯広市)間での情報共有を図りながら、観光事業と観光資源を活用した連携事業を実施している。	
	③その結果	平成25年度実績 ・道内中核都市周遊促進事業・・・・各都市の観光スポット等を巡るスタンプラリーの実施等。(実施期間 H25.4.20~H25.12.19、参加者 4.052名)・観光PR事業・・・・北海道さっぽろ「食と観光」情報館PRスペースを活用し、各都市の観光PR、イベントPRのポスター及びパンフレットを掲出した。(実施期間 H25.7.10~H25.7.22、チラシ・パンフレット配布数 6都市合計 431部)	
	①事業主体	帯広市 (観光事業者)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・明年2月に開催される「おびひろ氷まつり」については、「さっぽろ雪まつり」及び「旭川冬まつり」と開催期間を合わせることで、三都市間の周遊を促進している。 ・今後は、日高地域や釧路市、網走市などの東北海道地域との連携を強め、各都市の観光スポットを周遊するルートを造成について検討する。	

	事業検討シート			
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興		
具体的な取組に 関するご意見		38 「フードバレーとかち」の概念や基準をわかりやすく示し、飲食店やホテルなど民間企業が関わりやすい環境を整えることで、民間による「フードバレーとかち」の普及を促進する(ホテルや飲食店などで共通食材の提供など)		
	①事業主体	フードバレーとかち推進協議会、関係機関 等		
現状の取	②事業内容	フードバレーとかちに関する説明会、パンフレットの配布等を通じて、フードバレーとかちの考え方・取組等について説明。特に、平成26年12月には、ホテル・飲食店を対象とした取組としては、十勝産食材を使用したメニューを展開している飲食店等に対し、共通のタペストリーを配布するなどの取組を実施。		
組	③その結果	平成26年12月実施のフェアについては、十勝管内100社107店舗が参加。消費者に対し、安全・安心で良質な十勝産食材を使用していることをPR。		
	①事業主体	フードバレーとかち推進協議会 (関係機関)		
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	引き続き、地域事業者に対してフードバレーとかちを分かりやすく説明する機会等を提供するとともに、フードバレーとかちの「見える化」に資する取組を進める。		

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客·交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	39 外国人誘客の先進地域との連携や既存の情報発信媒体を活用した PR活動を図る	
	①事業主体	帯広市、帯広観光コンベンション協会	
		・今年の2月に外国人誘客の先進地である虻田郡ニセコ町に、オーストラリア人が好む十勝の冬の観光施設の発掘・調査として、ニセコ地域のオーストラリア人観光事業者を十勝へ招聘した。	
現状の取組	②事業内容	・中国向けの情報発信サイトである「悠悠北海道」に十勝の情報を掲載し、発信している。 ・厚生労働省の受託事業である実践型地域雇用創造事業において、「外国人観光客を対象とした十勝の魅力発信モデルツア一造成事業」を実施している。(平成26年7月~) ・十勝総合振興局「Visit Tokachi」 http://visit-tokachi.jp/jp	
	③その結果	平成25年度実績(オーストラリア人観光事業者招聘事業) ・開催期間・・・平成26年2月23日~25日 ・参加者数・・・8名	
	①事業主体	観光事業者 (帯広市)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・クラブメット サホロでは、明年7月3日~10月12日までの100日間、期間限定で夏季営業を始めることから、そこに滞在する外国人観光客に帯広市を周遊してもらえるよう、観光素材やルートの提案を検討したい。 ・札幌、旭川、函館などとの連携による外国人観光客の誘致事業を展開し、道内を周遊するツアーの造成を促進する。	

	事業検討シート			
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興		
具	体的な取組に 関するご意見	40 専門家や発信力のある人などを対象とした効果的なPRイベントを実施する(飲食事業者を対象に有名なパン屋さんを講師とした講習会の実施など)		
	①事業主体			
現状の取組	②事業内容			
組	③その結果			
	①事業主体	観光団体(帯広観光コンベンション協会、帯広市、帯広商工会議所、観光事業者)		
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	事業概要や実施後の事業展開について、関係団体との協議を行う。(実施時期、会場、講師及び受講対象者の選考、フォローアップ、成果測定等。)		

		41
		事業検討シート
施	策の基本方向	5 集客・交流産業の振興
	体的な取組に 関するご意見	41 ホテルや旅行会社等と連携したアンケートの実施、及び客観的データの共有を図り、それらを活用した情報発信を行う
	①事業主体	
現状の取	②事業内容	
組	③その結果	
	①事業主体	帯広市 (観光事業者、帯広観光コンベンション協会)
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	関係団体において、アンケートの設問内容、データの収集方法と管理、 データの活用方法等について、協議を行いたい。

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	42 地域住民に十勝・帯広が観光地であることを意識付けするため、 フォーラム等を定期的に開催する(パネルトークや住民参加型のワーク ショップの開催など)	
	①事業主体		
現状の取	②事業内容		
組	③その結果		
	①事業主体	十勝観光連盟、帯広観光コンベンション協会	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	・十勝・帯広の観光地などを地域住民に伝え、理解を深めてもらうことを目的としたフォーラムの開催を検討する。 ・開催内容は、観光に携わる著名人による基調講演、地域観光事業者によるパネルトーク、十勝・帯広が観光地として躍進するためのヒントや課題をテーマとした住民参加型のワークショップ等を想定。  【意見】 ・地域住民に、このエリアが観光地であることを自覚してもらう事を目的とする。その為には、単発ではなく繁忙期を除く年1回以上の継続実施が望ましい。市民講座のプログラムに組み込んだり、町内会報や広報おびひろのコーナー等で、毎回小さくてもコラムに記事を掲載するのが望ましい。(眞鍋委員)	

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客·交流産業の振興	
具	は体的な取組に 関するご意見	43 農場とガーデンの連携など観光ルートへのストーリー性の付加、及び新たな周遊ルートの造成を促進する	
	①事業主体		
現状の取組	②事業内容		
組	③その結果		
	①事業主体		
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	具体的な取り組みは(34)、(37)、(44)、(45)のとおり	

	事業検討シート				
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興			
	体的な取組に 引するご意見	44 専門的な案内ができる農業ガイドを養成するなど、「十勝らしい」体 験型観光の深化・醸成を図る			
	①事業主体	民間事業者、帯広市			
現状の取	②事業内容	平成25·26年度に、国の緊急雇用創出事業を活用して、畑ガイドの養成などを実施した。 厚生労働省の受託事業である実践型地域雇用創造事業において、「外国人観光客を対象とした十勝の魅力発信モデルツアー造成事業」を実施している。(平成26年7月~)			
組	③その結果	畑ガイド受入実績・・・平成25年度 138人、平成26年度 1,031人			
	①事業主体	民間事業者 (帯広市)			
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	ファームツーリズム推進事業として、モニターツアーによるニーズの検証 や旅行会社に対するモデルツアーの助成を検討している。			

	<b>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>			
抗	色策の基本方向	5 集客・交流産業の振興		
	体的な取組に 関するご意見	45 「食」をメインとした観光振興に、知的観光資源やサイクリングなど他 分野の観光資源を絡めた観光振興を推進する		
	①事業主体	観光事業者、帯広市		
現状	②事業内容	サイクリングテストツアーの受入やサイクリング関係者の招聘を実施し、 十勝・帯広の魅力発信を行ったほか、「とかちサイクルマップ」を製作する ことで、サイクリストへのホスピタリティの向上を図った。		
の取組	③その結果	○台湾サイクリング協会招聘事業 ・主催・・・ひがし北海道国際観光ルート整備協議会 ・内容・・東北海道の観光地を巡るサイクリング、交流会の開催 ・参加者数・・5名 ○ボダカサイクリングテストツアー受入 ・主催・・・とかち観光誘致空港利用推進協議会 ・内容・・・サイクリングの実施、サイクリングコースの視察、交流会の開催 ・参加者数・・13名 ○ジャイアント旅行社招聘事業 ・主催・・・ひがし北海道の関観光ルート整備協議会 ・内容・・・十勝・オホーツク地域のサイクルルートや観光地視察、交流会の開催 ・参加者数・・・4名		
	①事業主体	観光団体 (帯広市、観光事業者)		
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	サイクリングで十勝・帯広の食、知的観光資源、温泉などを巡るサイクルツーリズム推進事業として、サイクルコースの設定やレンタサイクル事業の強化など受入環境を整備するほか、サイクリングツアー受入やサイクリングイベントの誘致・支援について、検討している。		

	事業検討シート			
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興		
具体的な取組に関するご意見		46 外国人観光客の「不安・不自由・不便」を軽減するため、観光案内や 飲食メニューを外国語や写真で表示するなどインフォメーションサービス の向上を検討する		
	①事業主体	観光事業者、帯広市、帯広観光コンベンション協会		
		・JR帯広駅1階に設置されている「とかち観光インフォメーション」では、英語で外国人観光客に対応できる体制となっている。		
現状の取	②事業内容	・とかち帯広空港や「とかちむら」に公衆無線LANを整備した。		
取組	③その結果	平成25年度外国人宿泊人数 ・十勝管内 76,880人(うち帯広市 5,203人)		
	①事業主体	帯広市		
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	外国人観光客へのインフォメーションサービスを向上させるため、観光案内や飲食店への各種情報提供を充実させていく。		

	事業検討シート		
施策の基本方向		5 集客・交流産業の振興	
	体的な取組に 関するご意見	47 バス·タクシーなどの二次交通を利用する観光客に対する情報提供 の充実を図る	
	①事業主体	十勝圏二次交通活性化推進協議会	
現状の取	②事業内容	十勝圏二次交通活性化推進協議会において、十勝管内における二次交通の充足と活性化よる利用者の利便性向上などについて、検討している。	
組	③その結果	H25年度実績 ・バス、タクシーと十勝の観光素材を組み合わせた商品開発(バス関係商品32コース、4,128名利用。ハイヤー関係商品35コース、8名利用) ・協議会ホームページの開設及びパンフレットの作成	
	①事業主体	十勝圏二次交通活性化推進協議会 (帯広市)	
今後の取組(想定)	②想定される 具体的な内容	十勝圏二次交通活性化推進協議会と連携するとともに、各種広報媒体を 活用した周知を強化する。	

資料 2

# 十勝の観光文化検定 検討会議

報告書

平成 26 年 11 月 19 日

#### 十勝の観光文化検定 検討会議 開催概要

#### 1. 設置目的

十勝の観光文化検定(通称: とかち検定)は平成 18 年の検定試験開始以来 8 年が経過した。平成 23 年度からは実行委員会から帯 広商工会議所主催検定への移行、テキストの改定、記述式・記入式問題の導入など試験内容の見直しや、合格者バッジや事業所向 け合格証の作成、合格者バスツアーなど普及や合格者活用に向けた取組みを実施してきた。

ここで一度これまでの取組みを振り返り、現状の課題を検証するとともに、本試験の認知度を高めて、受験者の増加につなげるなど、今後の本事業の実施について検討することを目的とする。

#### 2. 検討事項

- (1) 合格者の活用に向けた取組みの検討
- (2)検定の普及に向けた取組みの検討
- (3)検定試験の内容と試験部会の在り方の検討

#### 3. 活動経過

第一回検討会議(課題の共有)9月2日

第二回検討会議(素案) 10月29日

第三回検討会議(最終案) 11月19日

#### 4. メンバー10 名

観光関係事業者:後藤健二(帯広旅館組合・組合長)、林克彦(北海道ガーデン街道・会長)

交通関係事業者:長沢敏彦(二次交通活性化協議会・事務局)

各種学校:村川貴康(帯広コア専門学校・事務長)

観光協会:櫻井政宏(帯広観光コンベンション協会・事務局長)

ライフコンシェルジュ:金澤和彦(トカプチ雄大空間感じる部会・部会長)

観光文化委員:讃岐武史(※座長)、麻生幸雄、細川吉博、梶野宗一朗

事務局:河合事務局長、武田次長、地域支援課:匂坂課長、植松主事

# 十勝の観光文化検定 現状と検討案

### 検討会議での意見(第1回検討会議・第2回検討会議)

検討課題	現状・課題	検討案
(1)合格者の活用に向	・観光地ではない現状で観光ガイドニーズがあるのか	①飲食店・お土産店・時刻表等の情報の整備と勉強会の実施
けた取組み	・ホテルのフロント業務で検定を受ける利点がない	②ライフコンシェルジュ活用費用有償化の検討
	・検定の知識と観光客の需要が乖離している	③ホテルのロビーに繁忙期期間限定でライフコンシェルジュを
	(主な質問は飲食店や移動のことであり、対応できていない)	配置するか検討
	<ul><li>費用をかけてまでライフコンシェルジュを設置する必要がない</li></ul>	④ガイド養成のための専門教育による知識の特化
	・ライフコンシェルジュにはバスツアー企画の需要について検討	⑤おもてなしをお菓子・豚丼・歴史などに分類
	中	⑥合格者の専門分野のスペシャリスト化
(2)検定の普及に向け	・とかち検定合格者に対して資格更新等のケアがない	①介護学科の学生や事業所単位でのとかち検定受験勧奨
た取組み	・生涯学習としての需要が強い	②帯広観光協会では次回のとかち検定を全職員受験したい
	・人材育成(おもてなし)ツールとしての利用は少ない	③当所HPのほか、検定案内チラシへの過去問抜粋掲載
		④受験対策講座、バスツアーの開催
		⑤資格取得後も勉強を続けられる仕組みの構築
		⑥とかち検定合格者の特典(足寄化石動物博物館・帯広美術館の
		入館料無料)
		⑦足寄化石動物博物館(文化施設)でのテキスト販売(実施済)
(3)検定試験の内容と	・観光客から聞かれる内容がテキストに網羅されているか?	①試験問題内容を実用的に改定 (ex. 豚丼の人気店)
試験部会の在り方	・試験問題内容が学術的である	②予告問題出題(試験への関心と出題先訪問者の増加が見込まれ
		る)
		③従来の「基礎編」の他に「特化編(実用的)」を設ける。
		④更新試験、実地研修の導入

### (1) 合格者の活用に向けた取組み

#### 現状と課題

- ①ホテルのフロント業務で検 定を受ける利点がない
- ②検定試験の知識と観光客の需要 が乖離している

(主な質問は飲食店や移動の効率 であり、対応できていない)

- ③費用をかけてまでライフコンシェルジュを設置する必要がない
- ④ライフコンシェルジュにはバスツアー企画の需要を検討中
- ⑤活用促進に向けた事業費の捻出 は困難

#### 検討案

- ①飲食店・お土産店・時刻表等の情報の整備と勉強会の実施
- ②ライフコンシェルジュ活用費用 有償化の検討
- ③ホテルのロビーに繁忙期期間限 定でライフコンシェルジュを配置 するか検討
- ④ガイド養成のための専門教育 による知識の特化
- ⑤おもてなしをお菓子・豚丼・歴 史などに分類
- ⑥合格者の商品化

### 今後の取組み

### 『合格者の活用には財政措置が 必要不可欠』

#### <人材育成(企業)>

- ①行政支援に向けた働きかけ
- ②企業・団体への働きかけ(活用ニーズの掘り起し)
- ③検定受験者へのアンケート(合格者ニーズの把握)

#### <生涯学習(個人)>

①ライフコンシェルジュ事業調査 研究(北海道開発技術センター)

### (2)検定の普及に向けた取組み

#### 現状と課題

- ①とかち検定合格者に対して資格 更新等のケアがない
- ②生涯学習としての需要が強い
- ③観光サービス、従業員のおもてなし向上のためにとかち検定を受験させるにあたり、企業側でその受験料や資格手当を負担できるかどうか不明。

#### 検討案

- ①介護学科の学生や事業所単 位でのとかち検定受験勧奨
- ②帯広観光協会では次回のとかち 検定を全職員受験したい
- ③当所HPのほか、検定案内チラシ への過去問抜粋掲載
- ④受験対策講座、バスツアーの開催
- ⑤資格取得後も勉強を続けられる 仕組みの構築
- ⑥とかち検定合格者の特典(足寄化 石動物博物館・帯広美術館の入館料 無料)
- ⑦足寄化石動物博物館(文化施設) でのテキスト販売(実施済)

#### 今後の取組み

『企業による人材育成ツールとし ての活用促進と生涯学習の充実』

#### <人材育成(企業)>

- ①人材育成ツールとしての活用に 向けた企業・団体への働きかけ ②企業ニーズの把握
- <生涯学習(個人)>
- ①未取得者を対象としたバスツ アーや試験対策講座の実施
- ②合格者への魅力ある生涯学習の実施(バスツアーなど)
- ③帯広市等生涯学習プログラムの 活用
- ④合格者特典による付加価値化

### (3) 検定試験の内容と試験部会の在り方

#### 現状と課題

- ①観光客から聞かれる内容がテキ ストに網羅されている
- ②試験問題内容が学術的である

#### 検討案

- ①試験問題内容を実用的に改定 (ex. 豚丼の人気店)
- ②予告問題出題(試験への関心と出題先訪問者の増加が見込まれる)
- ③従来の「基礎編」の他に「特化編(実用的)」を設ける。
- ④更新試験、実地研修の導入

### 今後の取組み

### 『生涯学習ニーズ及びガイド養成 ニーズへの対応』

- <人材育成(企業)>
- ①ガイド養成試験としての検討
- <生涯学習(個人)>
- ①テキストの随時改訂
- ②テキスト販売多様化の検討
- ③過去問題有料化の検討

# とかち検定 今後の取組みの方向性

	人材育成(企業)ニーズ	生涯学習(個人)ニーズ
(1)合格者の活用に 向けた取組み	『合格者の活用には財政措置が必要不可欠』 観光ガイドなど「合格者の活用に向けたニーズ調査」 ①企業・団体への働きかけ(活用ニーズの掘り起し) ②検定受験者へのアンケート(合格者ニーズの把握) ↓ 活用策・行政支援に向けた働きかけの検討(今後の検討課題)	『ライフコンシェルジュ活動の充実』 ①ライフコンシェルジュ事業調査研究(北海道開発技術センター) ②ガイド活動・バスツアー・イベント支援など(実施団体との連携)
(2) 検定の普及に向 けた取組み	『企業による人材育成ツールとしての活用促進』 ①人材育成(おもてなし)ツールとしての活用に向けた 行政機関、企業・団体への働きかけ ②企業の課題、ニーズの把握	『生涯学習プログラム等の利用促進』 ①帯広市市民大学講座(実施団体との連携) ②高齢者学級バスツアー(実施団体との連携) ③百年記念館博物館講座(実施団体との連携) 『合格者特典の拡充』 ①合格者の特典(足寄化石動物博物館・帯広美術館の入館料無料など)の充実
(3) 検定試験の内容と試験部会の在り方	『ガイド養成ニーズへの対応』 「合格者の活用に向けたニーズ調査」(企業・合格者) ↓ ガイド養成試験としての実施の検討(今後の検討課題)	『生涯学習ニーズへの対応 (無償オープン化)』 ①テキストの随時改訂 ②テキスト販売の無料化、過去問題有料化の検討 ③オープン化 (無償化)の検討 (今後の検討課題) ④試験対策講座やバスツアー等の実施 (費用面の課題)

# 今後の取組み(タイムスケジュール)

活動項目	26 年度	27 年度	28 年度
(1)合格者の活用に向けた取組み			
〔人材育成〕			
①企業・団体への働きかけ (活用ニーズの掘り起し)		$\rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow$	
②検定受験者へのアンケート (合格者ニーズの把握)	$\rightarrow \rightarrow \rightarrow$		
③活用策・行政支援に向けた働きかけの検討			$(\longrightarrow\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to\!\!\to$
〔生涯学習〕			
①ライフコンシェルジュ事業調査研究	$\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow$		
(2)検定の普及に向けた取組み			
〔人材育成〕			
①人材育成ツールとして行政機関、企業・団体への働きかけ		$\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow$	
②企業ニーズの把握		$\rightarrow \rightarrow \rightarrow$	
〔生涯学習〕			
①生涯学習講座(実施団体との連携)		$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$	$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$
②高齢者学級バスツアー (実施団体との連携)		$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$	$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$
③百年記念館博物館講座 (実施団体との連携)		$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$	$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$
④合格者の特典の充実			$\rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow$
(3)検定試験の内容と試験部会の在り方			
〔人材育成〕			
①ガイド養成試験として検討や無償オープン化の検討			$(\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow)$
〔生涯学習〕			
①テキストの随時改訂		$\longrightarrow \longrightarrow \longrightarrow$	$\rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow \rightarrow$
②テキスト販売多様化・無料化の検討		$\rightarrow \rightarrow \rightarrow$	
③過去問題有料化の検討		$\rightarrow \rightarrow \rightarrow$	

### 十勝の観光文化検定 検討会議 まとめ

#### (1) 合格者の活用に向けた取組み

観光地とは言えない十勝において有料及び無料による観光ガイドの利用ニーズが不明であり、合格者活用に向けたシステム構築・運用の開始に向けては財政措置が不可欠。従ってまずは企業や団体、個人に向けた調査など活用ニーズの把握に努め、合格者活用のためのシステム構築は今後の検討課題とする。

一方、ご当地風土アドバイザーとしてのライフコンシェルジュ活動は、合格者個人が自ら活動する場として、とかち検定合格者に対するライフコンシェルジュ活動の周知により活動への参加を促していく。

#### (2)検定の普及に向けた取組み

規約第2条本検定の目的に関し「十勝の魅力の再発見となる生涯学習、子供の教育及び地域の歴史・文化の伝承に寄与」の面については、生涯学習のツールとしての利用が進み一定の成果が認められる。一方「十勝を訪れる人に対する観光産業をはじめとした地域全体のホスピタリティを高める」効果については、ホテルや観光施設に対する本検定の普及が進んでいるとは言えず、今後の普及に向けた取組みが課題となる。しかし観光産業等ビジネスに関連した普及を進めるためには、検定の問題やテキストがガイド養成に即した内容になっていないなどの指摘があり、ガイド養成ニーズへの対応には本検定の仕組みを大きく変更する必要があり簡単ではない。当面は地元行政機関や観光関連産業を中心に、本検定の普及に向けたPR活動を行うとともに、普及に向けた課題の整理についても検討を進める。

また、生涯学習を促進するための講座やバスツアーなどの取組みは、帯広市等が実施する生涯学習プログラムや帯広百年記念館が開催する 講座の中で実施されており、とかち検定合格者が生涯学習の場として利用されるよう連携を図っていく。

更に博物館や美術館などに対する入場料の軽減措置など合格者特典の拡充に向け取り組んでいく。

#### (3)検定試験の内容と試験部会の在り方

現在本検定事業の収支はほぼ均衡状態であるが、受験者が減少傾向に向う場合は、作問を行う試験部会の在り方やテキストの作成・販売、過去問題の配布などの方法を再検討する必要がある。また、これまで述べ 955 名の受験者と 611 名の合格者を輩出してきたことにより、規約第 2 条の「高齢者から子供まで幅広い層が、十勝の自然・歴史・産業・文化・生活などに関する知識をより深めてもらう機会の創出」の目的については一定の成果を得たと理解することができる。今後は構築したノウハウをオープンにして無償化するなど、インターネットを通じて、あらゆる人が自由に十勝について学ぶことができるよう、発展的に本試験を終了することも選択肢として考えられる。